

施策評価調書(25年度実績)

施策コード I-5-(4)

政策体系	施策名	すべての主体が参加する美しく快適な県づくり	所管部局名	生活環境部	長期総合計画頁	51
	政策名	恵まれた環境の未来への継承～ごみゼロおおいた作戦の推進～	関係部局名	生活環境部、土木建築部		

【I. 主な取り組み】

取組No.	①	②
取組項目	地域における環境保全活動の促進	環境教育・学習の推進

【II. 目標指標】

指 標		関連する 取組No.	基準値		25年度			26年度	27年度	目標達成度(%)							
			年度	基準値	目標値a	実績b	b/a	目標値	目標値	25	50	75	100	125			
i	ごみゼロ行動参加者数(人/年)	①	H16	117,419	335,000	346,833	103.5%	367,500	400,000								
ii	夏の夜の大作戦(キャンドルナイト)への参加施設数(施設)	①	H16	475	2730	2,719	99.6%	2,765	2,800								
iii	レジ袋削減枚数(万枚/年)	①	H21	7,855	9,540	8,612	90.3%	9,660	9,780								
iv	環境教育アドバイザー派遣団体数(団体/年)	②	H16	36	88	80	90.9%	94	100								

【III. 指標による評価】

評価	理 由 等		平均評価
i 達成	事業所やボランティア団体の活動が増加しており、県民総参加の活動として着実に広がりを見せている。		達成
ii 概ね達成	目標にはやや届かなかったが、広報を行う業種の幅を更に広げ、目標達成に努める。		
iii 概ね達成	取組開始以降、マイバッグ持参率は高水準を維持しているが、当初想定した持参率の上積みはなく横ばいとなっている。これは、同様の取組を行っている他県も同様の状況である。H25.1月に事業者、消費者等、市町村、県をメンバーとする「大分県レジ袋削減推進協議会」を設立し、協働によりレジ袋削減の取組を進めている。		
iv 概ね達成	学校や社会福祉施設など各種団体等へ環境教育アドバイザーを派遣し、環境保全意識の高揚は図られているが、更なる広報が必要である。		

【Ⅳ. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・身近な環境保全活動に取り組むごみゼロ隊が平成24年度から59団体増え、平成25年度末で1,970団体登録し、地域や事業所単位で活動している。
②	・幼児向け環境劇は、公演先の幼稚園等からの要望も多く、環境保全意識の醸成に大変効果的であるとの評価を受けている。 幼児向け環境ワークショップは、環境の知識が深めるため、各幼稚園等において計3回、それぞれ異なるメニューを実施している。

【Ⅴ. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(25年度事業)	事業コスト(千円)	26年度の実施状況	主要な施策の成果掲載頁
①	ごみゼロおおいた作戦推進事業	34,129	継続	93
	クリーンロード支援事業	17,728	継続	201
	ふる里の水辺づくりサポート事業	10,326	継続	202
②	地球温暖化対策推進事業	64,953	継続	91

【Ⅵ. 施策に対する意見・提言】

<p>○ごみゼロおおいた作戦県民会議(H25.11.22)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10年間のごみゼロ隊の活躍により、ゴミが少なくなってきた。引き続き子供達へきれいな自然を残していく活動をしていくべき。 ・環境教育アドバイザーはよい制度なので、もっと普及啓発をはかるべき。 	
--	--

【Ⅶ. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの県民がごみゼロおおいた作戦へ関心を持ち、日常生活で環境保全活動を実践するよう啓発や関連イベントの強化、ごみゼロ隊の活性化を図る。 ・小中学生を対象に体験型の環境教育を行うごみゼロ探険団の実施やごみゼロ推進隊など団体間の連携により地域住民参加型の環境保全活動等を推進する。 ・レジ袋の削減については、現状の取組を行いつつ、一層の削減を図るため、持参率が低い消費者を中心に啓発を行う。 ・幼い頃から環境に関心を持ち、環境保全活動を実践する人材を養成するため、環境教育の充実を図る。